

# 子ども虐待防止に重要な 養育者支援システムを考える

子ども虐待防止には、親（養育者）の抱える問題の解決が極めて重要ですが、日本では、養育者の支援が十分とは言えません。困難に直面する養育者に支援を提供するために、日本において何が必要かを探求し提言しました。

研究開発プロジェクト

## 養育者支援によって子どもの虐待を低減するシステムの構築



研究代表者

国立研究開発法人理化学研究所 脳神経科学研究センター 親和性社会行動研究チーム チームリーダー

黒田 公美

### 概要

子ども虐待防止には、親（養育者）の抱える問題の解決が極めて重要ですが、日本では、養育者支援が十分に行き渡っているとは言えません。その背景には、家族に子育てやケアを大きく依存する日本の社会制度、および子ども虐待の発生メカニズムの科学的根拠に基づく理解不足があります。本プロジェクトの目的は、困難に直面している養育者にニーズに即した支援を提供するために、何が必要かを明らかにし、提言することです。脳科学・福祉・保健・社会学・法学など幅広い分野の研究者と、子ども虐待問題に関わる専門職や当事者の方々が協働して、調査・研究を行った結果、養育困難の程度に応じ、図に示すような一連の対策が必要と考えられました。

### 研究開発の成果

まず予防的観点から、日本の子育て環境全般の底上げが必要です。保育・教育に関する支援拡充に留まらず、社会全体で子どもと子育ての価値を認め、行政や企業の各種手続きや決定などの際に配慮する「子ども・子育てメインストリーミング」を提言します。

選択的・個別的な養育困難世帯への支援のためには、精神保健など関連福祉分野と児童福祉との連携促進と、支援者自身が安心して働けるための支援者支援の体制も必要です。

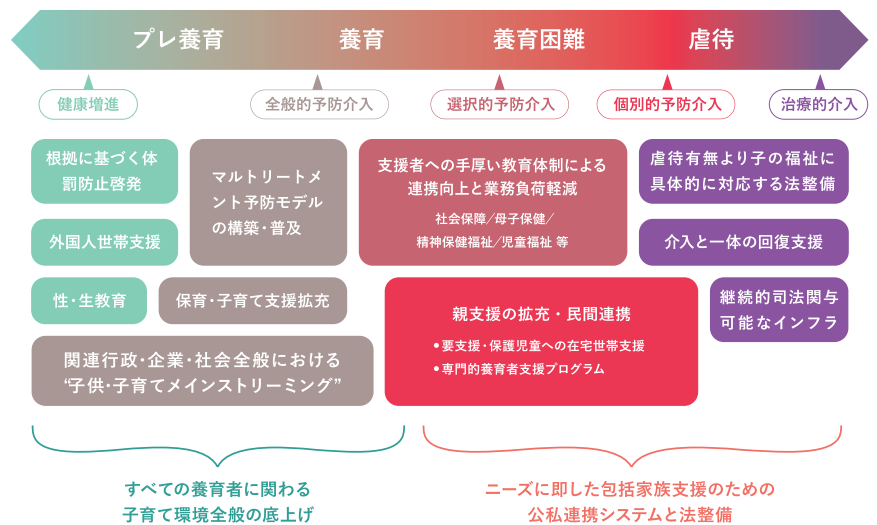
地域における継続的支援のためには、NPO など民間支援者と行政機関の連携が必要ですが、契約業務の煩雑さなどが障壁となっている現状もわかりました。

児童虐待かどうかによらず、子の福祉に具体的に着目した法制整備の重要性も見出されました。

### 成果の活用場面

養育者支援プログラム普及の要件を探索するモニター事業では、29 人の養育者に関し何らかの困難を自覚する人に、6 種の養育者支援プログラムのうち 1 つを受講していただきました。その前後で聞き取り調査を行い、子どもの問題行動や養育者のストレスなど、親子関係に関する何らかの改善を確認しています。支援システム案を提言し試験的実装を行います。

### 養育者支援推進のための段階別提言



### 成果の担い手・受益者の声

**担い手 (Supporters):** 見えない心の疲れが客観的・定量的に評価されるようになれば、本人との間で共有でき適切な助言や支援につながりやすいです。(子育て支援者)

**受益者 (Beneficiaries):** 出所後に養育者支援プログラムに参加したい。子どもに迷惑かけずに、一人で受けられるのも助かります。本だけでもここにいるうちに読みたい。(受刑中の養育者)

### 目指す社会の姿／今後の課題

子どもは未来の社会を担うかけがえのない存在です。その子どもの育成には、親（養育者）の負担を伴います。親子の心身の不調や環境困難などの事情により、養育者への負担が過大になると、結果として不適切養育に至ってしまう場合があります。だからこそ、親子をとりまく社会からの支援が必要です。一人の子どもを育てるためには、親だけでなく、幼稚園や学校の先生、産婦人科や小児科の医療スタッフ、さらに地域の施設職員や近所の人々など、様々な分野からの貢献も必要です。子どもが安心して暮らせるために、子どもの育ちを支えるすべての人も、安心しゆとりを持って暮らせる社会を目指し、今後も研究開発を続けてまいります。